令和５年度　障害者スポーツ推進プロジェクト

特別支援学校等における運動部活動の
地域連携・地域移行支援事業の実施について

川崎市

1　事業目的

誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくりを目指して「かわさきパラムーブメント」を推進しており、共生社会の実現に向け、パラスポーツの推進に取り組んでいる。
障害者の継続的なスポーツの実施促進には、身近な場所でスポーツを実施できる機会の創出や、スポーツに関わる人の障害理解が必要である。そのため、学校や地域団体と協力し、障害者とスポーツをつなぐ人材育成の支援や、総合型スポーツクラブ等と連携した「支える体制」の強化により、パラスポーツの実施環境の整備を図ることを目的とする。

2　今年度の取組内容

（１）オープンエアメーカーの養成及び活用
（２）地域での障害理解啓発活動に向けた教材の周知広報
（３）特別支援学校における部活動支援
（４）実行委員会の開催

3　具体的な取組内容

（１）オープンエアメーカーの養成及び活用

【概要】

障害に対する理解啓発を進め、地域でスポーツ活動などを支援するオープンエアメーカー（障害理解サポーター）を増やしていき、さらに、特に障害のある子どものスポーツ活動を支援できるスキルを持った人材育成を行い、特別支援学校の部活動支援等につなげていくことを目的として開催した。

【主な対象】

支援学校の教員を志す者など今後、福祉分野での活動を担う学生

【開催日時・場所】

第１回：令和５年１１月１０日（金）　　田園調布学園大学
第２回：令和５年１１月２４日（金）　　田園調布学園大学
第３回：令和５年１１月２５日（土）　　県立高津支援学校
第４・５回：令和６年２月２６日（月）　川崎市立聾学校

第１回の様子

第２回の様子

第３回の様子

【内容】

第１回　基本編

障害理解に関する基本的知識等を学ぶ座学形式の講座

第２回　演習編

第１回を踏まえ、オープンエアメーカーとして第3回実地編である「秋の遊び場」に向けた演習

第３回　実地編

県立高津支援学校で開催された「秋の遊び場inたかつ」において、パラスポーツの体験ブース運営に協力

第４回

市立特別支援学校における部活動支援の実施

【参加者の声】

・学ぶだけではなく交流することができ、とても楽しく参加することができました。
・いつもと違う考え方ができて楽しかった
・「秋の遊び場inたかつ」楽しかった
・たくさん子どもたちの笑顔を見れて良かったです。講座や授業でもあったように、保護者の方や、支援員ではなく、「本人の意思を聴く」ということを意識して活動に取り組めて、教員になってからもこのことを意識して関わっていきたいと思いました。

【参加人数】

田園調布学園大学学生：８名

（２）地域での障害理解啓発活動に向けた教材の周知広報

【概要】

障害の理解浸透を図るため、これまでの成果である絵本や紙芝居（ワクワクのつくりかた～オープンエアメーカーになろう～）の趣旨や活用方法などについてSDGｓパートナー企業（約3200社）向けに周知を行い、それぞれ希望があったところについては、新たに配布を行った。併せて、オープンエアメーカー養成講座の実施についての周知を図った。
また、市内の寺子屋事業を行っている事業者に対しても周知広報を行う予定である。

「ワクワクのつくりかた　～オープンエアメーカーになろう！～」
絵本

「ワクワクのつくりかた
～オープンエアメーカーになろう！～」
紙芝居

（３）特別支援学校における部活動支援

【概要】

市内の特別支援学校３校（聾学校、中央支援学校、田島支援学校）にヒアリングを行い、それぞれの部活動における支援ニーズを把握した。それを踏まえ、オープンエアメーカー養成講座の受講者やその他地域資源を活用しながら部活動支援を行った。

【聾学校での実施】

ヒアリングを行った結果、特に聾学校においては、「生徒はもっと部活をしたいと思っている」ようであり、専門の指導者による技術的指導にニーズがあることがわかった。

これを踏まえ、地域資源を活用したアスリートによる技術的な指導や競技実演などを行う方向で部活動支援を行った。

【内容】

開催日：令和６年２月２６日（月）　場所　：川崎市立聾学校　部活動：卓球部及び陸上部

●卓球部

川崎市内に事業所を構え、かわさきスポーツアンバサダーである「信号機材株式会社卓球部」から所属選手２名（日本リーグ２部リーグ優勝レギュラー）が参加し、一緒にラリーを行うなど、生徒に技術指導を行った。

●陸上部

市立中学校地域運動部活動推進事業支援に携わっている市内の陸上クラブのコーチと川崎市立高校卒業のアスリートが参加し、アップ方法や陸上に必要な筋力トレーニングなどの指導を行った。

【生徒の声】
・技術的な指導をしてくれてとても良かったです。今日教えてもらったことを今後も練習します。
・今日の経験を活かして早く走りたい。歩くと走るの違いがわかり、楽しかった！
・バックとフォア、つっつきなど、いつもラリーでも続かなかったけど、先生にきてもらい、続ける事が出来ました。ありがとうございました。
・今日は来てくれてありがとうございました。今日の練習を忘れずにこれからも練習していきます。

【関係者の声】
・子どもがいつも以上に生き生きしてたのが印象的であった。
・練習方法教えてもらって今後に繋げたい。
・聾学校は特に高いレベルで部活動に取り組んでいることがわかった。
・これを機に地域で出ていける機会をつくりたい

ラリー

アスリートによる実演

練習前のアップ

筋力トレーニング

（４）実行委員会の開催

【概要】

　有識者、スポーツ協会、特別支援学校、スポーツ推進委員、身体障害者協会、障がい者スポーツ指導者協議会、社会福祉協議会、総合型地域スポーツクラブ等の代表者及び行政関係部署により構成する実行委員会を２回（７月、２月）開催した。

　その中で、オープンエアメーカー養成講座や特別支援学校の部活動支援の実施方法などについて協議・検討を行い、今年度の方向性について決定した。

●第１回実行委員会

開催日：令和５年７月７日（金）

内　容：今年度の取組案について報告を行い、各委員からの意見を参考にしながら、オープンエアメーカーの養成及び活用、地域での障害理解啓発活動に向けた教材の周知広報、特別支援学校における部活動支援の３本立てで今年度は進めることを確認した。

●第２回実行委員会

開催日：令和６年２月１６日（金）

内　容：今年度の取組成果を報告するとともに、次年度以降の本プロジェクトのあり方について意見をいただき、今後の方向性について確認した。

～今年度の成果～

・オープンエアメーカーの養成及び活用として、支援学校の教員を志す者など今後、福祉分野での活躍が期待される学生を対象として養成講座を開催した。今年度は、特別支援学校の部活動支援のサポートすることを念頭に、座学、演習、実地と段階的に実施することでより理解浸透を図ることができた。

・地域での障害理解啓発活動に向けた教材の周知広報として、これまでの本プロジェクトの成果である絵本と紙芝居をホームページのほかに新たにSDGsの達成に向けて取り組む企業・団体の皆様に対して、それぞれの取組に活用できるようにメーリングリストを活用して広く周知広報を図ることができた。

・特別支援学校における部活動支援については、部活動視察及びヒアリングを通じて、各学校においての部活動への課題等が異なることがわかった。その中で、特に競技性の向上ということに課題を感じている市立聾学校において地域のアスリートを活用しながら実施した。外部のアスリートが指導することで生徒の意識ややる気の向上につながり、有意義な時間を提供することができた。さらに、また、学校と地域指導者との新たな関係性を構築することができた。

～今後の方向性～

・これまでの取組成果を有効活用しながら、裾野拡大に向け、障害理解啓発に向けた取組を進めていく。

・本プロジェクトで開催した実行委員会に参加している団体間で連携しながら、共生社会の実現に向けかわさきパラムーブメントのレガシー形成に資する取組を進めていく。